

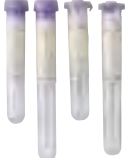
項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
副腎髄質関連検査	5115 尿カテコールアミン 4E010-0000-004-204	酸性蓄尿 2.0	35	冷蔵	4~6	189 生Ⅱ	HPLC法	μg/day 52.0~195.3	*1 ※02	褐色細胞腫 神経芽細胞腫 本態性高血圧
	2173 カテコールアミン3分画 (A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン)	血漿1.5 冷却遠心	13	(分離後) 絶凍 (1ヶ月)	4~6	165 生Ⅱ	HPLC法	pg/mL A : 100以下 NA : 100~450 DA : 20以下	※02	
	4715	髄液1.5	2	絶凍	4~6	165 生Ⅱ	HPLC法	pg/mL	※02	
	2174 血漿 4E016-0000-022-204 髄液 4E016-0000-041-204 蓄尿 4E016-0000-004-204	酸性蓄尿 2.0	35	冷蔵	4~6	165 生Ⅱ	HPLC法	μg/day A : 3.4~26.9 NA : 48.6~168.4 DA : 365.0~961.5	*1 ※02	
	2178 ドーパミン総	血漿1.5 冷却遠心	13	(分離後) 絶凍	6~12		HPLC法	ng/mL 1.8~7.7	※02	
	血漿 4E050-0000-022-204 髄液 4E050-0000-041-204	髄液1.5	2	絶凍	6~12		HPLC法	ng/mL	※02	
5381	L-ドーパ 4E045-0000-022-204	血漿1.5 冷却遠心	13	(分離後) 絶凍	6~19		HPLC法	ng/mL 1.2~2.2	※02	神経芽細胞腫 褐色細胞腫 悪性黒色腫 Parkinson症候群

*1 所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。
酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。

2 滅菌スピッツ



13 EDTA-2Na入り



35 遮光用尿容器



項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件 ・ 備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名			
副腎 髓質 関連 連 検 査	5447	VMA (バニリルマンデル酸) 血漿 4E060-0000-022-204 蓄尿 4E060-0000-004-204	血漿1.5	13	冷蔵	4~7	90 生Ⅱ	HPLC法	ng/mL 3.3~8.6	※02	褐色細胞腫 神経芽細胞腫		
	0521		酸性蓄尿 1.5	35	冷蔵	4~6	90 生Ⅱ	HPLC法	mg/day 1.5~4.3	* 1 ※02			
	2179	HVA (ホモバニリン酸) 血漿 4E055-0000-022-204 髄液 4E055-0000-041-204 蓄尿 4E055-0000-004-204	血漿1.5	13	冷蔵	4~7	69 生Ⅱ	HPLC法	ng/mL 4.4~15.1	※02	悪性黒色腫 褐色細胞腫 神経芽細胞腫 Alzheimer病 Parkinson症候群		
	5118		髄液1.5	2	冷蔵	4~7	69 生Ⅱ	HPLC法	ng/mL	※02			
	2180		酸性蓄尿 1.5	35	冷蔵	4~6	69 生Ⅱ	HPLC法	mg/day 2.1~6.3	* 1 ※02			
	3380		尿メタネフリン2分画 (MN:メタネフリン NMN:ノルメタネフリン) 4E040-0000-004-205	酸性蓄尿 2.0	2	冷蔵	4~6	220 生Ⅱ	LC-MS/MS	mg/day MN : 0.04~0.19 NMN : 0.09~0.33		* 1 * 2 ※02	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	1259	5-HIAA (5-ハイドロキシ インドール酢酸)		血漿1.5	13	冷蔵	4~7	95 生Ⅱ	HPLC法	ng/mL 1.8~6.1	※02	カルチノイド 片頭痛 脳性麻痺 ダンピング症候群 フェニルケトン尿症	
	2188	酸性蓄尿 0.5		35	冷蔵	4~6	95 生Ⅱ	HPLC法	mg/day 1.0~6.0	* 1 ※02			

*1 所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。
酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。

*2 メタネフリン総 (mg/day) も報告いたします。

2 滅菌スピッツ



13 EDTA-2Na入り



35 遮光用尿容器



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎皮質関連検査	2162 17-ケステロイド分画 (17-KS7分画) 4D018-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵 (28日)	7~8	213 生Ⅱ	GC/MS法 (酵素水解法)	mg/day 下記参照	酸性蓄尿は避けて下さい。 一日尿量記入 ※02	多嚢胞性卵巣症候群 先天性副腎皮質過形成 副腎癌 Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍
	2160 11-ヒドロキシコルチコステロイド (血中11-OHCS) 4D035-0000-023-282	血清0.5	1	冷蔵	3~9	60 生Ⅱ	蛍光法 (De Moor変法)	μg/dL 午前10時採血 7.0~23.0	※02	Cushing症候群 Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍 Addison病
	2147 コルチゾール 4D040-0000-023-051	血清0.2	1	冷蔵	1~2	124 生Ⅱ	CLIA法	μg/dL 3.7~19.4 下記参照		Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍 Addison病 先天性副腎皮質過形成
	1321 尿コルチゾール 4D040-0000-004-051	蓄尿5.0	35	冷蔵	1~2	124 生Ⅱ	CLIA法	μg/day 4.3~176.0 下記参照	一日尿量記入	
	3514 アルドステロン 血漿 4D115-0000-022-052 血清 4D115-0000-023-052	血漿0.5	13	(分離後)凍結 (21日)	3~5	125 生Ⅱ	CLEIA法	pg/mL 4.0~82.1	採血は座位で15分間安静後、午 前を推奨いたします。 ※02	原発性アルドステロン症 特発性アルドステロン症 糖質コルチコイド反応性アルドステロン症 腎血管性高血圧症 悪性高血圧症 腎実質性高血圧症 褐色細胞腫 レニン産生腫瘍
		血清0.5	1	(分離後)凍結 (21日)						
	3515 尿アルドステロン 蓄尿 4D115-0000-004-052	蓄尿1.5	2	凍結 (21日)	6~8	125 生Ⅱ	CLEIA法	μg/day 1.0~19.3	一日尿量記入 ※02	Batter症候群 糖尿病性腎症 間質性腎炎

[2162] 17-KS7分画基準値 (単位: mg/day)

	男 性	女 性
アンドロステロン	1.10~4.20	0.40~3.00
エチオコラノロン	0.55~2.60	0.30~2.50
デヒドロエピアンドロステロン	0.12~5.20	0.04~2.60
11-ケトアンドロステロン	0.12以下	0.07以下
11-ケトエチオコラノロン	0.04~0.65	0.03~0.50
11-OHアンドロステロン	0.40~2.30	0.22~1.60
11-OHエチオコラノロン	0.03~0.65	0.02~0.65

[2147・1321] コルチゾール測定結果判定法

基準範囲: 血清

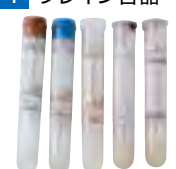
検体の種類	検体採取時間	n	95%基準範囲	
			(μg/dL)	(nmol/L)
血清	午前10時以前	150	3.7~19.4	101.2~535.7
血清	午後 5時以降	150	2.9~17.3	79.0~477.8

基準範囲: 尿

検体の種類	n	95%基準範囲	
		μg/24時間 ^a	nmol/24時間 ^b
尿	128	4.3~176.0	11.8~485.6

a μg/24時間 = コルチゾール濃度 (μg/dL) × 10 × 24時間に排尿された尿の容積 (L)
b nmol/24時間 = コルチゾール濃度 (nmol/L) × 24時間に排尿された尿の容積 (L)

1 プレイン容器



2 滅菌スピッツ



13 EDTA-2Na入り



35 遮光用尿容器

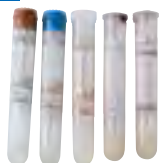


項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
2166	DHEA-S (デヒドロエピアンドロ ステロンサルフェート) 4D090-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	169 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	性別、年齢を明記し てください。 ※02	Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍 先天性副腎皮質過形成 Addison病 続発性副腎不全

[2166] DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート) 基準値 (単位: $\mu\text{g/dL}$)

年齢(歳)	男 性	女 性
18~20	24~537	51~321
21~30	85~690	18~391
31~40	106~464	23~266
41~50	70~495	19~231
51~60	38~313	8~188
61~70	24~244	12~133
71~	5~253	7~177

1 プレイン容器



	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	2208	エストラジオール (E ₂) 4F025-0000-023-051	血清0.4	1	冷蔵	1~2	172生Ⅱ	CLIA法	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 ※1	先天性副腎皮質過形成 エストロゲン産生卵巢腫瘍 卵巢機能不全 閉経
	3540	抗ミュラー管ホルモン (AMH) 4F100-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(21日)	3~5	600 ① 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	※02	多嚢胞性 卵巢症候群

①抗ミュラー管ホルモン（AMH）は、不妊症の患者に対して、調節卵巢刺激療法における治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体としてEIA法、CLEIA法又はECLIA法により測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

※1 薬剤フルベストラントとの交差反応性がある為、真値より高くなる可能性があります。

[2208] 血中エストラジオール (E ₂) 基準値 (単位pg/mL)		
男 性	39.8以下	
	女 性	卵 胞 期
		排 卵 期
		黄 体 期
		閉 経 後
妊 婦	前期(1~16W)	135~3916
	中期(17~28W)	1710~15690
	後期(29~40W)	3720~29280

[3540] 抗ミュラー管ホルモン(AMH)基準値 (単位ng/mL)		
女 性	22~25歳	0.28~8.01
	26~30歳	0.29~12.2
	31~35歳	0.07~10.0
	36~40歳	9.23以下
	41~45歳	4.48以下



項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	1466 プロジェステロン (プロゲステロン) 4F045-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	147 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	先天性副腎皮質過形成 Cushing病 Addison病 無月経 卵巢機能不全 無排卵
	2206 プレグナンジオール 4F055-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵 (28日)	7~8	213 生Ⅱ	GC/MS法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※02	先天性副腎皮質過形成 Cushing病 腎性男性化腫瘍 妊娠 胎状奇胎 下垂体機能不全 副腎性腺機能低下症
	2207 プレグナントリオール 4F060-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵 (28日)	7~8	232 生Ⅱ	GC/MS法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※02	先天性副腎皮質過形成 Cushing病 腎性男性化腫瘍 妊娠 胎状奇胎 下垂体機能不全 副腎性腺機能低下症
	2210 テストステロン 4F065-0000-023-053	血清0.4	1	冷蔵	2~4	122 生Ⅱ	ECLIA法	ng/mL M 1.31~8.71 F 0.11~0.47	性別を明記してください。*1 ※33	男性ホルモン産生腫瘍 多嚢胞性卵巣症候群 先天性副腎皮質過形成 視床下部下垂体 機能低下症 原発性性腺機能低下症
	4773 フリーテストステロン 4F070-0000-023-005	血清0.3	1	(分離後) 凍結	3~7	159 生Ⅱ	RIA固相法	下記参照	午前中に採血してください。性別、年齢を明記してください。 ※02	男性ホルモン産生腫瘍 多嚢胞性卵巣症候群 先天性副腎皮質過形成 視床下部下垂体 機能低下症 原発性性腺機能低下症

*1 負荷試験の場合は、検査依頼書に負荷時間を明記してください。

[1466] プロジェステロン基準値 (単位ng/mL)

非妊婦	卵 胞 期	1.2以下
	排 卵 期	0.3~10.4
	黄 体 期	1.4~20.6
閉経女性		0.9以下
男 性		0.9以下
妊 婦	第 一 期	11.22~90.00
	第 二 期	25.55~89.40
	第 三 期	48.40~422.50

[2207] プレグナントリオール基準値 (単位mg/day)

女 性	卵胞期	0.13~1.30
	分泌期	0.13~1.90
	閉経期	0.02~0.83
男 性		0.13~1.60

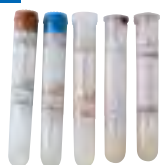
[2206] プレグナンジオール基準値 (単位mg/day)

男 性		0.16~0.79
非妊婦	卵胞期	0.28~1.42
	黄体期	0.79~6.83
妊 婦	前 期	1.29~6.08
	中 期	3.05~24.22
	後 期	9.10~60.51

[4773] フリーテストステロン年齢別・性別における基準値 (メーカー参考値) (単位pg/mL)

年 齢	男 性	女 性
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8
50~59	4.6~19.6	0.8~1.7
60~69	5.3~11.5	
70以上	4.6~16.9	

1 プレイン容器



35 遮光用尿容器



性腺・胎盤関連検査

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
2212	HCG定量 (絨毛性ゴナドトロピン) 4F080-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	134 ① 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	妊娠 多胎妊娠 異所性HCG産生腫瘍 子宮外妊娠 絨毛性疾患 流産
3612	尿HCG定量 4F080-0000-001-023	尿3.0	2	冷蔵	1~2	134 ① 生Ⅱ	FEIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	妊娠 切迫流産 子宮外妊娠
2213	遊離HCG-β分画 (HCG-βサブユニット) 4F090-0000-023-006	血清0.5	1	冷蔵	3~5	132 ① 生Ⅱ	IRMA法 (RIA固相法)	ng/mL 0.10以下	※01	妊娠 悪性腫瘍 消化性腫瘍 絨毛性疾患 肝硬変
1494	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ 3B200-0000-058-062	子宮頸管 粘液	48	凍結 (1ヶ月)	3~5	119 ② 尿糞	ラテックス 凝集免疫法	μg/mL 1.60以下	検体採取方法は次ページを ご参照ください。 ※02	頸管炎 膣炎 絨毛羊膜炎
5221	ヒト癌胎児性 フィブロネクチン 5C111-0000-067-023	膣分泌液	110	凍結 (1ヶ月)	3~5	204 ③ 免疫	ELISA法	陰性(-)	検体採取方法は次ページを ご参照ください。 ※02	破水 早産 切迫早産

- ① ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β) は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合のみ算定できる。
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量又は半定量を併せて実施した場合は、主たるものの1つに限り算定する。ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量及び同半定量は、HCG・LH検査 (試験管法) を含むものである。
- ② 顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液) は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。
- ③ 癌胎児性フィブロネクチン定性 (頸管膣分泌液) は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。

[3612] 尿中HCG (単位 mIU/mL)

男性		
女性 (非妊婦)		2.5以下
妊婦	4~7週	1210~475000
	8~11週	21900~709000
	12~20週	2890~193000
	21~40週	1680~74300

[2212] HCG (単位 mIU/mL)

妊娠女性	2週~4週	39.1~ 8388
	5週~6週	861~88769
	6週~8週	8636~218085
	8週~10週	18700~244467
	10週~12週	23143~181899
	13週~27週	6303~97171
	28週~40週	4360~74883
非妊娠女性		10未満
閉経女性		10未満
男 性		10未満

内分泌学的検査

1 プレイン容器



2 滅菌スピッツ



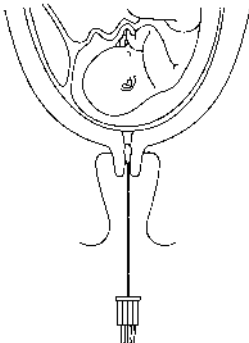
48 子宮頸管顆粒球



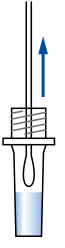
110 ヒト癌胎児性フィブロネクチン



[子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ] 検体採取方法

容器形態		採取方法		
48  内容 抽出液 (リン酸バッファー) 貯蔵方法 室温 (抽出液は冷蔵) 有効期間 1年	正しい採取部位 	子宮腔部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。	●注意事項 1) 子宮頸管部より採取してください。 2) 検体採取は腔部洗浄前に行ってください。 3) 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。 4) 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いてください。 <採取前> <採取後> 粘液 固形物 5) 採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。 【ご注意】 検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。	
	検査項目	保存	抽出方法	
	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	凍結	①  抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。	②  頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。
		④  フィルターをセットします。	⑤  検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴 (約300μL) を分取します。必要量を得られない場合は検体採取からやり直してください。検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵 (8℃) で3日以内、冷凍 (−15℃以下) で3ヵ月以内に測定してください。	

[ヒト癌胎児性フィブロネクチン] 検体採取方法

容器	採取方法		
110  内 容：抽出液 貯蔵方法：室温 有効期間：製造から1年	① 専用綿棒を後腔円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。 ※腔表面を強くこすらないでください。 ※粘液は混入させないでください。 【ご注意】 検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。 ④ 検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。 	② 検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌物を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。)  ⑤ 検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。  測定試料	③ 綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。  ●注意事項 ・ 検体の採取は腔洗浄前に行ってください。 ・ 検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。 ・ 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。 ・ 検体は後腔円蓋から採取してください。 ・ 腔表面を強くこすらないように注意してください。 【採取後は必ず凍結保存してください】